

授業科目	造形的表現指導法	1単位	選択	演習	2学年前期	担当 教員	非常勤講師 鹿山卓耶					
授業の概要	① 子どもの発達と造形表現に関する知識と技術を理解するために、テキストを読み解きながら授業を進行する。 ② 造形遊びについて理解を深め、造形表現と子どもの経験を結びつける遊びの展開について学ぶ。 ③ 「材料・方法」、「題材」の観点から教材研究を行う。 ④ 模擬保育を行い、実践的に、造形表現の指導方法について模索する。											
到達目標				学習成果Ⅰ			学習成果Ⅱ			学習成果Ⅲ		
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。				○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	
2. 造形表現に用いる材料・道具・技法を知り、自ら考え、教材として活用する能力を身につける。				○	◎		○	◎	○	○	◎	○
3. 子どもが造形表現に取り組む際の、保育者の支援方法、環境構成及び具体的展開をするための知識・技術を習得する。				○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○
凡例 ◎：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために特に重要な目標、○：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために重要な目標 査定項目①～⑨はivページ参照												
	主 題	準備学習	本時の学習内容と到達目標					復 習				
1	オリエンテーション	メモ・ノートの準備。	当該授業の概要説明と諸注意。学習内容と到達目標について理解する。					次回必要となる材料・道具の用意。				
2	材料・方法から考える 教材研究1	必要な材料・用具等を準備しておく。	造形的な表現活動を「材料・方法」の観点から考える。紙を用いた創造的な遊びを考案する。					次回必要となる材料・道具の用意。				
3	材料・方法から考える 教材研究2	必要な材料・用具等を準備しておく。	考案した紙を用いた創造的な遊びを実践する。					次回必要となる材料・道具の用意。				
4	材料・方法から考える 教材研究3	必要な材料・用具等を準備しておく。	考案した活動内容をレポートにまとめる。「材料」と「方法」の観点から教育的意義について考え、発表する。					次回必要となる材料・道具の用意。				
5	題材から考える 教材研究1	必要な材料・用具等を準備しておく。	造形的な表現活動を「題材」の観点から考える。「音の出るおもちゃ」を題材にした造形活動を考案する。					次回必要となる材料・道具の用意。				
6	題材から考える 教材研究2	必要な材料・用具等を準備しておく。	「音の出るおもちゃ」を題材にした造形活動を実践する。					次回必要となる材料・道具の用意。				
7	題材から考える 教材研究3	必要な材料・用具等を準備しておく。	考案した活動内容をレポートにまとめる。「題材」の教育的意義について考え、発表する。					次回必要となる材料・道具の用意。				
8	造形表現に関する 模擬保育1	必要な材料・用具等を準備しておく。	造形表現に関する模擬保育についてのオリエンテーション。各班で題材と内容を決定する。					次回必要となる材料・道具の用意				
9	造形表現に関する 模擬保育2	必要な材料・用具等を準備しておく。	模擬授業内容を検討。保育指導案の作成、教材研究を行う。					次回必要となる材料・道具の用意。				
10	造形表現に関する 模擬保育3	必要な材料・用具等を準備しておく。	模擬授業内容を検討。保育指導案の作成、教材研究を行う。					次回必要となる材料・道具の用意。				

1 1	造形表現に関する 模擬保育 4	模擬授業を行う班は材料等の準備。メモ・筆記用具。	AB 班の模擬授業の実践。反省とまとめを行う。	授業を通じて学んだことを整理し、まとめておく。
1 2	造形表現に関する 模擬保育 5	模擬授業を行う班は材料等の準備。メモ・筆記用具。	CD 班の模擬授業の実践。反省とまとめを行う。	授業を通じて学んだことを整理し、まとめておく。
1 3	造形表現に関する 模擬保育 6	模擬授業を行う班は材料等の準備。メモ・筆記用具。	EF 班の模擬授業の実践。反省とまとめを行う。	授業を通じて学んだことを整理し、まとめておく。
1 4	造形表現に関する 模擬保育 7	模擬授業を行う班は材料等の準備。メモ・筆記用具。	GH 班の模擬授業の実践。反省とまとめを行う。	授業を通じて学んだことを整理し、まとめておく。
1 5	まとめ	メモ・ノートの準備。	当該授業のまとめを行う。発表。	学んだことを整理し、まとめる。
成績 評価	作品・発表 70% 意欲・関心・態度 30% 合計 100%			
教員 からの コメント	課題を自ら考え、実践する授業となりますので、主体性を持って臨んでください。教材研究した内容を、受講生同士で共有することで、造形表現の指導方法について、広く、深く、学びが得られることを期待しています。研究というと、堅苦しく感じるかもしれませんが、好奇心を持って追求すれば、自ずと成果が出てきます。楽しんでやりましょう。			
教科書	書名 幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材 著者 樋口一成 編 発行所 萌文書林	推薦 図書	書名 著者 発行所	